

令和3年度 上宮学園中学校・上宮高等学校 学校計画と学校評価

1 建学の精神

本学園は浄土宗を母体とし、法然上人の仏教精神を教育の根底におく学校である。知育・德育・体育のバランスのとれた全人教育をおこない、慈悲の精神を育てることを目標とする。

校訓「正思明行」は、中学生・高校生として生徒一人一人が、人間としてのるべき生き方と真理を探求する正しい心の眼と思いを持ち、理想を求めて主体的に行動することを説いている。

また、学順「一に掃除・二に勤行・三に学問」とは、校訓を実現させるための具体的な行動を示している。掃除とは文字通り身辺の環境美化を意図するとともに、学ぶ心の準備を意味する。勤行とは勤勉実行を意味する。それは一生を通して求められる生活の行動指針であり、学校生活では学業や課外活動にも規範意識を持って精進努力することであり、社会人となれば強い勤労意欲を持つことである。学問は勤行から得られる知識と健康な心身を土台として、未知への探求心や自らの疑問を解決する能力としての智恵を養うことである。すなわち、先ず心を清めて素直な心がけを第一とし、次に己が身の力の限り努力して勉学に勤しめば、学問は自ずと身に備わり、その真価を發揮できることを示している

2 教育目標（目指す学校像）

- ① 建学の精神を可視化した「上宮ルーブリック」にある具体的な教育指標をもって、心の教育を実践する。
- ② 中学生には、基本的な生活習慣と学習習慣を定着させるとともに、様々な行事を通して個性・独自性を育て、「人間力」の礎を作る。
- ③ 高校生には、大学進学等に必要な学力の養成と進路学習に重点を置くとともに、生徒の自己実現、社会参加および社会貢献に目標を持たせ、自立（自律）と社会で生きる共生の精神を育成する。
- ④ 教員は教育活動を通して社会貢献を行うという志を持ち、在校生・卒業生が上宮人として誇りに思う学校を目指し、生徒の将来に思いを寄せるとともに、いつでも卒業生を温かく迎える気持ちを持続続ける。

3 中期的目標

- I 建学の精神に基づいた人材を育成する
- II 生徒の学力・進学実績の向上を目指す
- III 生徒の学校生活の充実を図る
- IV 教育環境の整備と発展を目指す
- V 広報活動の戦略を立案し、志願者の質の向上と人数確保を図る
- VI 健全かつ安定的な財務・経営を目指す

4 中期的目標に基づく、学校の本年度の重点目標・具体的な取組計画・評価指標・自己評価

(A : 目標が「達成できた」, B : 「7割以上が達成できた」, C : 「4割以上が達成できた」, D : 「ほぼ達成できなかった」)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（目標）	自己評価と分析	
I	(1)宗教情操教育の充実	(1)①宗教科を中心に各教科と連携 ②宗教行事の精査	(1)①シラバスの見直し (特に宗教科) ②生徒への趣旨説明 (宗教の授業で)	(1) ①C ②C (2)	(1)①各教科への連携には至らなかった。 ②コロナで行事が実施出来なかった (2)①生徒説明は実施した。 ②教員への説明は実施した。 ③電子化はしているが分析には至っていない。
	(2)上宮ルーブリックの定着	(2)①新入生への説明会を実施 ②教員への説明 ③ルーブリックの評価を電子化する	(2)①説明会の実施 ②説明の実施 ③電子化の定着率を確認	(1)B ②B ③C	
II	(1)コース再編を行う (2)各コースの目標設定 (3)教育力の向上 (4)中学生の学力向上への取組み (5)放課後の学習活動の充実 (6)生徒の学習意欲の向上	(1)コース再編成会議を重ねる (2)模試成績データを活用して課題と対策について調査 (3)各教科でシラバスの見直し (4)学力推移調査および各種検定等の目標設定と成績向上 (5)補講習・自学自習体制の確立 (6)①学習イベントの設定や顕彰システムの構築 ②大学見学会の充実 ③HR・総合探求の充実	(1) 1学期中旬までを期日とする (2)① 各コースの到達目標の数値化 ②教科の到達目標の数値化 (3)学校評価アンケートでの数値化 (4)数値目標の達成度を確認 (5) 1学期中旬までを期日とする (6) ①学校評価アンケートでの数値化 ②学校評価アンケートでの数値化 ③学校評価アンケートでの数値化	(1)C ②C (3)C (4)C (5)C (6) ①D ②C ③C	(1)検討を重ねたが3学期末現在完成していない (2)コース残留基準等はできている。 (3)アンケートでは満足できる結果ではない。 (4)英語検定の目標は達成しつつある。 (5)補講習は年間計画があるが、自学自習体制については検討中である (6)①構築されていない ②コロナで見学会の一部が実施できなかった。 ③
III	(1)授業の活性化 (2)安全・安心な学校を目指す (3)知・徳・体のバランスの取れた学校行事についての精査を行う	(1)能動的な授業の研究 (2)いじめ防止対策委員会の定期的開催 (3)行事予定会議で検討	(1) 学校評価アンケートでの数値化 (2)いじめ防止対策マニュアルの改正 (3)学校評価アンケートでの数値化	(1)C ②C (3)C	(1)コロナ禍であり十分な取り組みができていない。 (2)委員会は開催しているがマニュアルの改正には至っていない (3)コロナ禍で実施できない行事があった。

IV	(1)アフタースクール計画の完成 (2)「A.L.」を活用し、「授業法の改良」として推進 (3)「ICT」教育の充実 (4)英語教育の充実	(1)①各クラブ活動の調査・顧問への聞き取り ②保護者への説明 ③本計画へのUゼミの合流 (2)研修会・研究授業等の実施 (3)①教育環境の整備 ②e ラーニング係を中心とした講習会や実践の共有会を開く (4)①学校として GTEC 等の英語外部試験を実施する ②高校英語入試の改良 ③英語定期考査の改良	(1)①計画表の作成 ②2 学期末までに行う ③計画表の作成 (2)授業アンケートでの数値化 (3)①Wi-Fi の設置 ②開催頻度 (4) ①英語外部試験実施の実績 ②高校英語入試後の確認 ③学年末考査での振り返り	(1)①D ②C ③D (2)C (3) ①B ②B (4) ①B ②B ③B	(1)①コロナ禍で未完成 ②打診程度である ③できていない (2)コロナ禍で実施できない ③①Wi-Fi の設置は完了した。 ②折に触れて教員への説明会が実施された。 (4)①GTEC は学校で実施した。 ②リスニングを実施。英検取得級を活用した。 ③リスニング等を実施
	(1)本校のブランドコンセプトを構築する (2)広報費用の精査をおこなう	(1)広報戦略係及び企画会で立案する (2)①費用対効果を探る ②前年度広報項目から削除項目と追加項目を探検証し、効率化を図る	(1) 1 学期末を期日とする (2)①生徒へのアンケート調査を行う ②費用圧縮につなげる	(1) B (2) ①B ②C	(1)様々な検討はしたが、まとまり切れていない (2) ①アンケート内容及び方法を検討している ②削減もできたが、HP 改善等の費用もかさんだ
	(1)事業計画に基づく財政計画の策定 (2)堅実な財政基盤の確立 (3)社会変化に対応できる組織力確立 (4)学園ブランドの確立	(1) 補助金を活用した教育環境の整備計画推進 ②補既存の諸制度の見直し (3)①「働き方改革関連法」に則した勤務体制を整備する。 ②教職員人事制度改革の検討。 (4) ①同窓会・保護者会・産業界との連携強化 ②地元地域との交流 ③生徒募集広報の創意工夫	(1) ICT 教育環境の整備 (2)①計算書類 ②就業規則等の改訂 (3)①変形労働制の確立 ②就業規則等の改訂 (4)①勧募制度の確立 ②学園設備の貸出や行事での交流 ③計画表の作成	(1) B (2) ①B ②C (3) ①C ②D ④ ①D (2) ②C ③B	(1)寄付金等の支援により Wi-Fi 環境の整備が整う (2)①耐震に伴う大規模工事が完了し、昨年に比べて収支のバランスはとれた ②一部改訂に取り組むも不十分であった (3) ①コロナ禍により、理想的な变形には至らなかった。 ②原案作成中 (4) ①コロナ禍による経済状況の変化や行事等の中止により不十分に終わる ②コロナ禍において可能な範囲で実施した。 ③予算に基づいた広報活動は実施できた

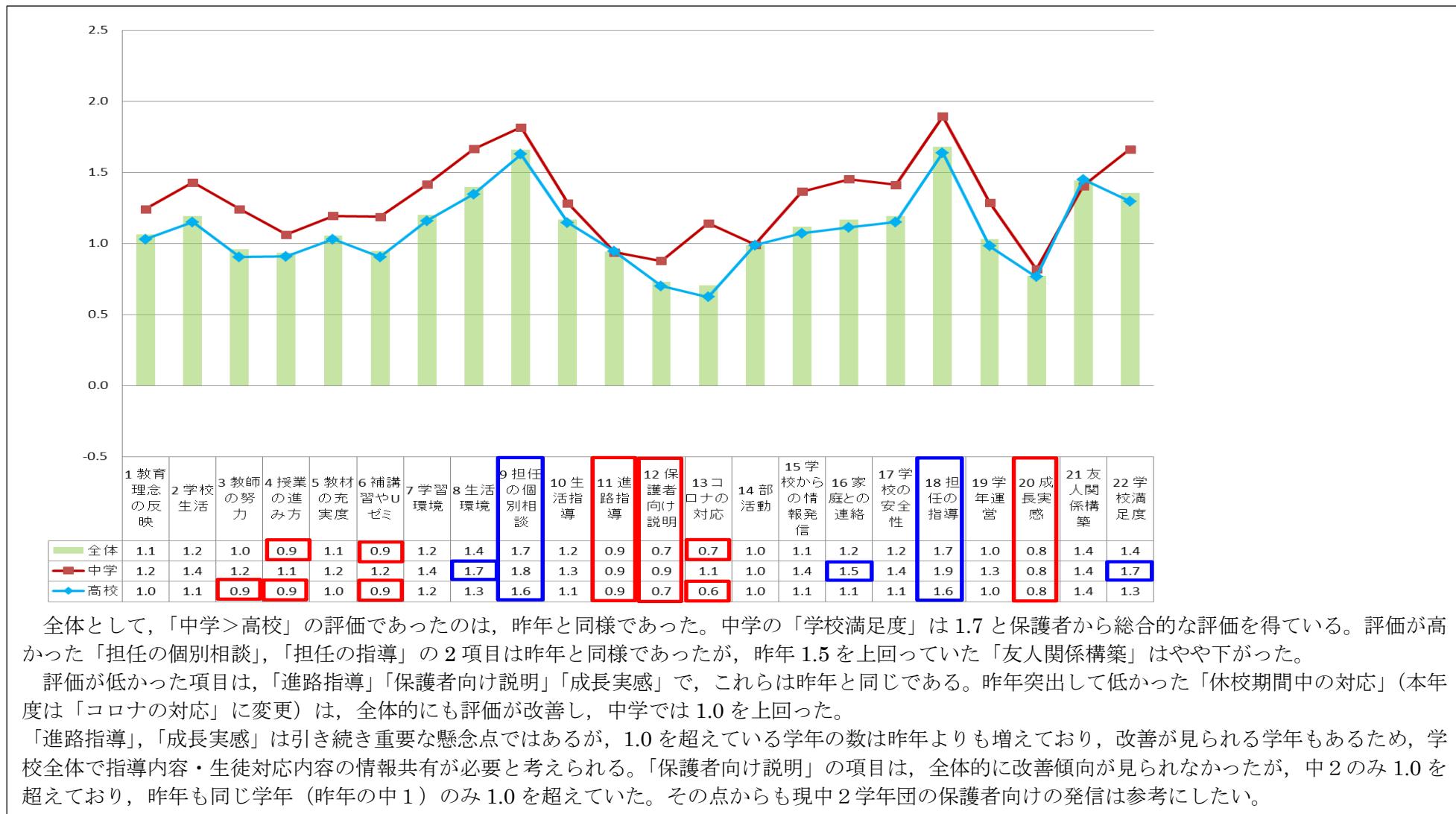
5 学校評価アンケートの結果と分析

昨年と同様に Classi を利用したアンケート調査形式を採用した。中高の保護者 2176 名から回答を頂き、回答率は 74% であった。

質問事項は以下の 22 項目であるが、質問文 13 は昨年と異なる質問内容とした。(昨年は「コロナで休校期間中の学校対応は、満足のいく内容だったと思いますか?」) 22 の項目において 4 段階評価とし、最高評価を 3 点、最低評価を -3 点として平均値を算出した。基準としては、「2.0 以上…目指すレベルをクリアしている 1.5 以上…一定の評価を得られている 1.0 以上…最低限クリアしている 0.5…早急な対策を要する 0 以下…即時の対策が必要」と認識している。

No	質問文	短縮表記
1	教育理念が教育活動全般に反映されていると感じますか?	教育理念の反映
2	お子様の学校生活は楽しく充実していると思いますか?	学校生活
3	教師は生徒の学習意欲を高める努力をしていると思いますか?	教師の努力
4	授業の進み方には満足していますか?	授業の進み方
5	教材やテキストは充実していると思いますか?	教材の充実度
6	平常の補講習やUゼミ(英検対策、オンライン英会話含む)は、進路実現に向け有効であると思いますか?	補講習やUゼミ
7	特別教室や、実験室、自習室などの学習環境が整っていると思いますか?	学習環境
8	保健室や食堂等、安全で健康的な生活環境が整っていると思いますか?	生活環境
9	担任は親身になって個別的な相談に応じてくれますか?	担任の個別相談
10	基本的な生活習慣が身に付く生活指導が行われていますか?	生活指導
11	将来の進路や生き方についての指導が十分なされていると思いますか?	進路指導
12	進路及び教育活動に関する保護者説明会や懇談会は充実しているだと思いますか?	保護者向け説明
13	今年のコロナ禍での学校対応は、満足いく内容だったと思いますか?	コロナの対応
14	部活動は活発で内容が充実していると思いますか?	部活動
15	学校からの通信や文書は、学校の様子が家庭に良く伝わる内容となっていますか?	学校からの情報発信
16	教師は家庭との連絡を大切にしていると思いますか?	家庭との連絡
17	本校の防犯、防災、安全管理への対策は十分だと思いますか?	学校の安全性
18	現在のお子様の担任の指導には満足されていますか?	担任の指導
19	現在のお子様の学年の運営には満足されていますか?	学年運営
20	お子様は学校の教育理念に示された人間像に向かって成長されていると実感されますか?	成長実感
21	学校はよい友人関係を築く場になっていると思いますか?	友人関係構築
22	本校を選ばれたことに満足されていますか?	学校満足度

結果を次図に示す。グラフの折れ線の茶色は中学、青が高校である。また表中の赤は要注意の内容、青は比較的スコアが高い内容である。



6 学校評価の総括

2021年度学校計画・学校評価の大項目については、I～VIの自己評価が全体的に低い結果となっている。令和3年度は、休校はなかったものの、まだコロナ禍にあり、学校機能の多くの部分にまだ影響を与えることは免れない。文化祭、体育大会など主要な学校行事においても中止や変更を余儀なくされ、当初策定した学校計画が十分に実施できない面があり、自己評価においても影響したと思われる。例えば、実際に年末から新年にかけてのオミクロン株の感染拡大は、学校にとっては脅威であり、中学入試や高校入試を大きな不安を持ちながら乗り切った感がある。

その様な環境下で行った保護者対象の学校評価アンケートであるが、特に「コロナ禍の対応」については昨年よりも高い評価が得られたのは少し安堵できる点である。今年度は、濃厚接触者等になって登校できない生徒へのオンライン授業が昨年よりもスムーズに行われたと思われる。しかし、保護者の方々も不安や不満があり、「進路指導」「保護者向け説明」「成長実感」などの評価に反映されていると考えられる。もちろんコロナ禍のみが原因ではなく、今後も学校としての真摯な取り組みを継続していく必要があると考えている。

以上の反省をもとに、2022年度は中期的目標の中でも「生徒の学力・進学実績の向上」および「生徒の学校生活の充実と教育環境の発展」を学校として重点をおく目標とし、具体的な方策を今年度目標にあげて力を入れたい。学習指導要領改訂により本年度の中学校に引き続き、来年度から高校では新カリキュラムの導入により、今まで以上の工夫が必要になると思われる。また重点目標に関連する他の項目についても細部にわたり、「2022年度学校計画・学校評価」にまとめる予定である。

最後に、学校運営に保護者の皆様のご理解とご協力は欠かせないものである。2022年度こそ保護者会活動が徐々にでも再開され、従来の形に近づいていくことを期待したい。以前のように、学校と保護者の方々とのコミュニケーションを通じ、生徒・保護者・学校がともに成長発展していくことを切に望んでいる。

7 学校関係者評価

【建学の精神・教育方針について】

- 校訓や一枚起請文など、本校の宗教教育の重要性を生徒に対して充分に説明する必要がある。
- 生徒手帳に掲載する一枚起請文は、原文と現代語訳版を掲載するなどの工夫も必要では。

【勉学面・進学面について】

- 生徒のやる気を起こさせる取り組みや、教師が情熱をもって生徒対応する必要があると思われる。
- 伝統だけではなく、進学実績の向上が大切である。
- 高1でアンケートを取って、将来の目標を考えさせ、色々な分野から外部講師を招いてキャリア講演会を開くなどの取組はどうか。社会で活躍している卒業生の招聘には協力したい。

【生活面について】

- 校則については、抑え込もうとする指導から自主的に規律ある行動がとれる教育へと変化するべきではないか。
- 薬物、アルコール、喫煙等に関する危険性について研修会を開いてはどうか。講師の招聘には協力したい。
- 運動部で必要となるスポーツマウスガードなどの普及も必要ではないか。

【保護者と学校の関係について】

- コロナ禍でできていなかった保護者会活動を再開し、保護者の方がお子様の成長を感じて頂く為にも、全クラスの保護者委員の選定に前向きに取り組んでほしい。

令和3年度 各学年における、本年度の重点目標・具体的な取組計画・評価指標・自己評価

【学年】

部署	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（目標）	自己評価と分析	
中学1年	(1)上宮学園中学校における教育方針の実践と周知徹底 (2)学習習慣を定着させる教科指導への取り組み。 (3)基本的生活習慣を定着させる生徒指導の確立。 (4)教科、分掌、学年等における連携や情報共有が行き届いた学年運営。 (5)保護者との連携の充実。	(1)学年集会やホームルーム、保護者説明会を活用し、教育方針、学校生活の送り方、進学規定等を周知徹底する。 (2)適切な課題を与え、早朝テスト、補講習を実施する。 (3)教員間の情報共有を密にし、学年全体で生徒指導にあたる。 (4)学年会の開催を定期的に行う。 (5)保護者説明会の実施と学校ICT化の充実を行う。	(1)学年集会やホームルーム、保護者説明会の実施回数で評価する。 (2)実施回数で評価する。 (3)学校生活における注意観察状況と指導頻度で評価する。 (4)実施回数で評価する。 (5)実施回数と充実度で評価する。	(1)B (2)A (3)A (4)A (5)B	(1)学年集会やホームルーム等で生徒向けの実践と周知徹底は行えたが、コロナの関係で保護者説明会が十分に行えなかった。 (2)学習強化プログラムや朝読、早朝テストなどを実施し、学力向上に努めた。 (3)昼食時の注意観察や休み時間の廊下での見回りを実施するとともに、生徒個人との面談機会も多く取り入れることができた。教員間での情報共有もしっかりと行えた。 (4)学年での情報共有を密にとることができた。 (5)新型コロナの影響下の為保護者説明会を十分に実施することが出来なかつたが、Classiや電話での日々の連絡を盛んにすることで、つながりを密にできた。
中学2年	(1)上宮学園中学校としての方針の徹底。(進学規定等) (2)学力育成と、その定着に向けた教科指導への取り組み。 (3)生徒指導の確立。 (4)学年における横の連携と教員間の情報共有による学年運営。 (5)保護者との連携。	(1)保護者説明会やホームルーム等を利用し、進学規定等を保護者並びに生徒本人へ確実に伝え る。 (2)昨年より引き続き、早朝テスト・補習の実施。 (3)教員間の連携を密にし、教員間の差が生まれないようにする。 (4)学年会等を使い、横の連絡を密にする。 (5)保護者説明会の実施や学年新聞の発行。	(1)必要に応じた、それぞれの集会の実施回数。 (2)テストの実施回数及び補習の開設数。 (3)登下校、教室、授業、休み時間での注意観察状態による。 (4)学年会実施回数。 (5)それぞれの実施（発行）回数。	(1)A (2)A (3)A (4)A (5)A	(1)学校の基本方針および進学規定については、保護者説明会やHRを通じて伝え、理解していただけた。 (2)英語・数学・国語の早朝テスト、更にそれぞれの補習を実施し、学力向上に努めた。 (3)昼食時の担任・副担任による注意観察を実施し、これにより感染予防、注意喚起が実施できたと思う。 (4)その都度、連絡を取り、学年としての情報共有がとれた。 (5)新型コロナの影響下であつたが、保護者説明会を実施。また、Classiによる連絡を盛んにすることで、つながりを密にできたと思う。
中学3年	(1)中3学年目標（学順：三学問これまで二年間で培った、日々の努力・精進を継続し、目標に達成・到達する。）を設定し、実践させる。 (2)内部進学に向けた学習指導への取り組み。 (3)安心できる学校生活に向けた生徒指導を確立する。 (4)クラス間における連携や情報共有による学年運営をする。 (5)学校と保護者との連携を密にする。	(1)内部進学規定の周知徹底をする。（HR・学年集会・保護者説明会） (2)早朝テスト、補・講習などの企画と運営を行う。 (3)「新しい生活様式」の徹底を行う。 (4)学年会を実施する。 (5)学年通信を発行し、学校の様子を伝える。	(1)HR・学年集会・保護者説明会などの実施回数で評価する。 (2)実施回数で評価する。 (3)登校時、昼食時に職員により消毒・黙食の実践回数で評価する。 (4)実施回数で評価する。 (5)発行回数、懇親会の実施回数で評価する。	(1)A (2)A (3)A (4)A (5)A	(1)保護者説明会（リモート含む）1学期末・2学期末に三者懇談を実施し、本校の教育方針に理解、協力して頂けた。 (2)各教科早朝テスト・補講習により、勉学意欲が向上した。 (3)日々、昼食時に担任及び副担任が教室に行き、感染予防の徹底にあたった。 (4)共通認識をもって事にあたれた。 (5)学年通信・クラッシャーの配信によって保護者との連携が密にとれた。

高校 1年	(1) 基本的な生活習慣を身につけさせる (2) キャリアパスポートの充実 (3) 上宮ループリックの活用 (4) 将来につながる進路指導	(1) 二者面談を活用する (2) ポートフォリオ課題を活用する。 (3) 面談を通して活用 (4) 生徒個々に応じた進路指導をする。	(1) 学校生活・生活習慣において評価 (2) 面談時に確認する (3) 内容を確認する。 (4) 生徒の進路に対する意識で評価	(1) A (2) B (3) B (4) A	(1) 朝礼・終礼・LHRなどで各クラス担任から注意をしてもらい学校生活習慣にも早い時点できれることができた。 (2) 卒業中学により、対応はバラバラで入学当時も生徒から提出ができていなかった。 (3) 個人面談を通して、上宮ループリックを確認できたが、當時活用まではできていない。 (4) 進路指導部との連携で進路指導については充実した指導ができ、各自将来の進路についても考えさせることができた。
高校 2年	(1) 基本的なコミュニケーション能力の育成 (2) 人の話を正しく理解する (3) 自分の意見をはっきりと言う	(1) LHR 等を活用して基本的なコミュニケーションができるトレーニングを行う (2) 図形伝達ゲームなどを利用して正しく情報を伝えるためのトレーニングを行う (3) 修学旅行・新聞記事などを利用して、自分の意見を言うためのトレーニングを行う	(1) 総合的な探究の時間でもプレゼンの質で評価する (2) 他者の発言への理解度や、理解しようとする姿勢で評価 (3) 修学旅行に関するプレゼンの質で評価する	(1) B (2) C (3) B	(1) クラスによって進捗度が異なった。 (2) クラスによって進捗度が異なった。 (3) できなかった。
高校 3年	(1) ループリックの活用と仕上げ (2) 学習指導の充実 (3) 進路指導の成果 (4) 生活指導の徹底 (5) 学年運営と学年会の活性	(1) 三者懇談で、2年間を振り返り、人としての成長について話し合う。 (2) 「コミュニケーション力・思考力」の育成。授業中の生徒の発言の機会を増やす。ICT等を活用した学習の質の向上。 (3) 個々の生徒に応じた指導。個別の進路先について理解を深めさせ、進路の決定を行わせる。 (4) 入試に向けての生活習慣の見直し。 (5) 学校行事の積極的な参加。各コースの連携。CLASSIの活用。	(1) ループリックの内容を確認する。 (2) 生徒のアンケート調査を参考にする。 (3) 三者懇談、個別面接の回数。国公立合格者の増加。 (4) 例年に比べて、欠席・遅刻の減少。厳重注意者の減少。頭髪不合格者の減少。 (5) 学年会の回数。CLASSIの発信量。	(1) A (2) A (3) A (4) A (5) A	(1) よくできていました。 (2) 各担当者は努力をしています。 (3) 国公立合格者の増加が達成できていな。 (4) 指定校決定者の頭髪不合格者が目立っていた。 (5) 活用頻度が多い。

各コースにおける、本年度の重点目標・具体的な取組計画・評価指標・自己評価

【コース】

部署	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（目標）	自己評価と分析	
6か年	(1) 自律的学習者の実現 (2) 各学年の学力向上策の促進 (3) 将来の自己像の明確化 (4) 体験的なキャリア教育の実現 (5) コース再編の実現	(1) 各教科での学習方法の指導 (2) 各担任の進路指導の共有化 (3) LHR・探究の有効利用 (4) 自分の進路を自分で決めるという主体性の育成 (5) 六ヵ年会議等で再編のための協議を行う	(1) 考査・模試等の設定目標の達成度合いによる確認 (2) 六ヵ年会議の中で学年の取り組みにより確認 (3) 懇談・生徒へのアンケート等で確認 (4) 卒業生・上級生からのアドバイスにより確認 (5) 特進・一貫プレップのよりよい進路の設定	(1) C (2) B (3) C (4) B (5) C	(1) 自学自習の徹底には至らなかった。 (2) 各検定の取得は増加の傾向にある。 (3) 将来の自己像の明確化がまだ不十分である。 (4) 大学進学への意識を持たせることができた。 (5) コースの見直しについては検討中である。
I・II型	(1) 生徒の学力が向上する指導 (2) 生徒が希望する進路実現 (3) 自立した学習習慣の指導 (4) 思考力・判断力を育成する授業の研究 (5) コース再編の実現	(1) 模擬試験の結果の分析と指導 (2) 各担任の進路指導の共有化 (3) 各教科での学習方法の指導 (4) 考えさせる授業、ICT活用の実践 (5) 各コースで再編の協議を行う	(1) 生徒による模試の数値目標の達成度で確認 (2) 毎回のコース会議で確認 (3) 生徒へのアンケートを行い、分析結果の共有化 (4) 模擬試験の結果により思考力・判断力が育成されているかを確認 (5) コース再編会議で1学期中に実現	(1) C (2) B (3) D (4) C (5) C	(1) 来年度から分析、指導の方針を持つことは出来た (2) 会議等で共有化出来いた (3) 実施出来なかったが来年度には行う方針がとれた (4) 各教科で思考力を養う授業の研究が行われた (5) コース再編の議論は多角的に行われた
プレップ	(1) プレップコースの活性化 (2) 連携・指定校制推薦入試に対する意識の変革 (3) 連携・指定校制推薦に依存しない学力の向上 (4) 生徒の実情に合わせた「パスポート項目」の改定	(1) 行事の見直し（廃止や新規導入）で、生徒の進学意識を高める (2) 説明会等で連携・指定校制推薦がメインの入試でないことを意識づける (3) 模擬試験の復習の徹底などを通して、学力の底上げを図る (4) 年度ごとにプレップ会議で改定について協議する	(1) 業者の教材使用も視野に入れる (2) プレップコース独自の説明会を設ける (3) 「Highschool-online」「Campus」等を利用し取組状況を把握して指導する (4) 各項目の比重を、あるべき生徒像と照らし合わせて決める	(1) D (2) C (3) B (4) D	(1) コロナの影響や業者教材との適性もあり、思ったほど達成できなかった。 (2) 進路説明会等で試みたが意識変革には及ばなかった。 (3) 復習時期が定期考査と重なったこともあり、半分程度しか指導できなかった。 (4) コロナの影響や想定外の事態の発生により、本来の目的以外の要素での変更を余儀なくされた。

各教科における、本年度の重点目標・具体的な取組計画・評価指標・自己評価

【教科】

部署	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（目標）	自己評価と分析	
国語	(1) 基本的国語力の充実 (2) 学力推移調査・模擬試験の全体把握 (3) 補講習の充実 (4) ICT 教育の研究と活用 (5) 新課程への対応	(1) 授業の厳正化を図る (2) 学力推移調査、模擬試験の成績データの結果の分析と対応策の検討 (3) 各コースの教育プランに基づいた補講習の立案、実施 (4) みらいスクールの活用やオンライン授業への対応の研究 (5) 新課程の内容の周知に対して教科会を活用	(1) 授業アンケートによる数値化 (2) 各コースの数値目標の達成度を確認 (3) 1学期中間考査までを期日とする (4) 1学期中を期日とする (5) 2学期末を期日とする	(1) A (2) B (3) B (4) B (5) C	(1) ほぼ達成できていると思われる。 (2) コースによりばらつきはあるが、徐々に達成できていると思われる。 (3) コロナの影響により実施に偏りがあったと思われる。 (4) 個人差はあるが、積極的に取り組んでいる担当者も増えてきていると思われる。 (5) 新課程の教科書を手にすることもなく対応が不十分だったと思われる。
社会	(1) 各コースの基礎学力の定着向上 (2) 聞かず授業内容・形態の向上 (3) コース別(近年多様に変化する受験形態別)指導の確立 (4) アクティブラーニング・ICT 教育の充実 (5) 新課程への対応に備える	(1) 授業の適切化、補講習の充実 (2) 授業の工夫、生徒対応の工夫 (3) 各コースそれぞれのシラバスに基づき、学力進度の達成 (4) 科目による P C、みらいスクールの活用とオンライン授業への対応研究 (5) 定例教科会への参加と教員間の新課程内容の情報の共有と対策研究	(1) 各学期中間・期末を期日とする (2) 授業アンケートの数値の向上 (3) 各コースの模試数値目標の達成 (4) 2学期期末を期日とする (5) 1学期中を期日とする	(1) B (2) B (3) B (4) B (5) A	(1) 担当者同じ思いはあるが、結果、成果においては多くの過程で改善の余地はあると思う。 (2) 各担当者間に達成度のばらつきは否めないところである (3) 各担当者において徐々に達成できていると思われる。 (4) 方法には個人差があるが、各担当者はかなり充実していると思う。 (5) 現状できる限りを準備していると思われる。(未定の部分を除く)
数学	(1) 基礎学力の定着 (2) 授業の質の向上 (3) 変わりゆく大学入試への適切な対応 (4) 補講習の充実 (5) 新課程への対応	(1) 小テストのこまめな実施や問題集をこまめに取り組ませるよう指導 (2) 考えさせる授業や、ICT の活用などで生徒たちが積極的に学習に取り組める授業を実践する (3) 大学の入試問題を解き、教科で研究し情報共有し、生徒へ情報還元する (4) 各コースの教育プランに基づいた補講習の立案、実施 (5) 新課程の内容の周知に対して教科会を活用	(1) 模試の数値目標の達成度合いで確認 (2) 授業アンケートによる数値化 (3) 2学期初頭を期日とする (4) 1学期中間考査までを期日とする (5) 2学期末を期日とする	(1) B (2) B (3) B (4) B (5) B	(1) ほぼ達成できていると思われる (2) 向上できていると思われる(教科平均 3.43 前年+0.08) (3) 皆で入試問題の模範解答を作成し、対応できた (4) 講習・補習を生徒の学力に応じて適宜実施できた (5) 教科会で先生方からの情報を共有できた
理科	(1) 基礎学力の定着 (2) 生徒の学力、進学実績の向上を目指す (3) 補講習の充実 (4) ICT 教育の充実 (5) 新課程への対応	(1) 小テストの実施、授業の活性化 (2) 模擬試験の成績データの結果の分析と対応策の検討 (3) 各コースの教育プランに基づいた補講習の立案、実施 (4) みらいスクールの活用やオンライン授業への対応の研究 (5) 新課程の内容の周知に対して教科会を活用	(1) 授業アンケートによる数値化 (2) 各コースの数値目標の達成度を確認 (3) 2学期初頭を期日とする (4) 1学期中を期日とする (5) 2学期末を期日とする	(1) B (2) B (3) B (4) B (5) B	(1) 実験はコロナのためにできなかつたが、基礎学力定着のために工夫して授業を行った。 (2) 各科目で積極的に取り組んだ。 (3) 講習・補習を生徒の学力に応じて適宜実施できた。 (4) 活発に行うことができた。 (5) 新課程の内容を科目ごとに検討できた。
英語	(1) 英語学力の向上 (2) 資格試験の情報提供 (3) 大学入学共通テストの情報収集 (4) アクティブラーニングの推進 (5) 新課程への対応	(1) 小テスト・課題・補講習の充実 (2) 英検・GTEC 等の情報収集と実施 (3) 大学入学共通テストの情報収集と共有 (4) 情報収集と実践の共有化 (5) 新課程の内容の周知に対して教科会を活用	(1) 授業アンケートによる数値化 (2) 学年末を期日とする (3) 2学期末を期日とする (4) 授業アンケートによる数値化 (5) 2学期末を期日とする	(1) B (2) A (3) A (4) B (5) A	(1) 教科平均 3.53 前年+0.39 (2) 英検中学年 3 回校内実施 (3) 共有できた (4) 教科平均 3.53 前年+0.39 (5) 教科会で情報共有
保健体育	(1) 基礎体力の向上 (2) 安全教育の推進 (3) 規律ある態度の育成 (4) 教員の資質向上 (5) ICT の活用	(1) スポーツに親しむ態度を育てる (2) 安全に注意し事故の無い授業の確立(感染症対策に注意した内容) (3) 自主的に参加する態度を育てる (4) 研修会の積極的参加 (5) ICT 教育の研修、研究	(1) 学年末を期日とする (2) 2学期末を期日とする (3) 授業アンケートによる数値化 (4) 学年末を期日とする (5) 2学期末を期日とする	(1) B (2) A (3) B (4) C (5) B	(1) コロナの制限による活動の為 (2) ほぼ達成できた引き続き注意して行なう (3) 自主性を重視した内容を工夫する (4) コロナの影響で研修が無い (5) 各自活用に向けより積極的に取り組みを継続する
芸術	(1) 芸術を親しみ愛好する心情を伸ばす授業の展開 (2) 芸術への関心を高めるような内容を構築 (3) 表現及び鑑賞の能力を高める指導の充実を図る (4) 授業の実施方法について教科内の連携	(1) 作品は肯定的に評価し、表現の多様性を理解させる (2) 制作意欲を高める課題の設定 (3) 様々な作品を鑑賞させる (4) 教科会の活性化	(1) 学年末に感想文の提出を求める (2) 学期ごとに感想文の提出を求める (3) 鑑賞会の実施により意見交換する (4) 中高担当者同士の情報交換を活発化	(1) A (2) A (3) B (4) A	(1) 実施できた。 (2) 実施できた。 (3) 授業時数の関係で実施できないクラスがあった。 (4) 教科間の意見交換は活発にできた。

家庭	(1)理解度の向上 (2)教科内での情報共有 (3)授業の質の向上 (4)教員の質の向上 (5)実習授業の実施に向けて	(1)生徒が理解しやすいよう教材等の工夫 (2)教科会の活性化 (3)ICT教育の研究 (4)研修会等への参加 (5)コロナ禍における実習授業実施のための情報収集	(1) 授業アンケートによる数値化 (2) 1学期末を期日とする (3) 2学期末を期日とする (4) 学年末を期日とする (5) 2学期中を期日とする	(1) B (2) B (3) B (4) C (5) B	(1) 昨年度と数値が変わらなかった。 (2) コロナ禍で全体では実施が難しかった。 (3) 積極的に取り組んだが、今後も取り組みが必要。 (4) コロナ禍により参加が難しかった (5) コロナの影響で実施せず。
情報	(1) 生徒のICTスキル向上の指導 (2) 情報モラルの育成 (3) プレゼンテーション能力の育成 (4) 共通テスト化に向けての座学の指導の向上 (5) プログラミング指導の研究	(1) 実習課題の工夫を行う (2) 実社会でのモデルを問題とする (3) プレゼンテーションの機会の増加 (4) 教科会での指導の共有化 (5) 新課程での指導を行うプログラミング言語の選定、研究を行う	(1) 日々の授業で実践 (2) 日々の授業で実践 (3) 日々の授業で実践 (4) 教科会の常態化の実践 (5) 教科書選定、副教材選定日を期日とする	(1) B (2) B (3) B (4) C (5) B	(1) 生徒も高いスキルで入学しております、教科指導でさらに向かっている (2) モラルの教材を工夫して指導を行った (3) プレゼンの回数を多くして生徒に慣れさせることによりプレゼン能力が向上した (4) 共通テストの情報不足で研究が十分に出来なかった (5) 次年度からの指導に向けて多角的に研究を行った
宗教	(1) 授業内容の精査 (2) 教材研究の質を向上 (3) 教員の質の向上 (4) 宗教行事の充実化 (5) 道徳教育への対応	(1) 教科書を元に何を伝えるか協議 (2) 他校と交流して、情報をえる (3) 教科会で授業動画を検証する (4) 学校と宗教行事を協議する (5) 道徳の教科書を周知する	(1) 授業アンケートで数値化 (2) 学年末を期日とする (3) 2学期末を期日とする (4) 学年末を期日とする (5) 2学期末を期日とする	(1) A (2) A (3) B (4) B (5) A	(1) 協議など充実できた (2) 研究会などに参加できた (3) 動画を有効に使えた (4) あまり進展がなかった (5) 読み込むことができた

各分掌における、本年度の重点目標・具体的な取組計画・評価指標・自己評価

【分掌】

部署	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（目標）	自己評価と分析	
高校教務	<ul style="list-style-type: none"> (1) 教務に関する事項についての連絡を周知徹底したい。 (2) 各行事の企画・運営及び実施にあたり情報収集と内容検討。特に修学旅行実施に向けての情報収集・検討 (3) 新年度時間割発表での教員への早期周知、日常での円滑な時間割業務を目指す。 (4) 各種書類の整理をしていきたい。 (5) 内規の再検討 	<ul style="list-style-type: none"> (1) Classi を用いての連絡の早期徹底周知を図る。 (2) コロナ禍においても実施できる行事を模索する。特に修学旅行ではコロナ禍においても、より安全に実施できる時期・内容を模索する。 (3) 新年度の時間割発表を早めに行うことで、新年度スタート時の時間割トラブルを防ぐ。ただし、教員の要求、特に非常勤講師の勤務に関しては、すべて要望に応えられないことの周知は学校側からお願いしたい。また、日常での時間割変更等、教員の確認ミスをなくす。 (4) 紙媒体から、変更可能なものはコンピューター上で管理への移行、捺印が不要と思われるものはなくしていきたい。 (5) 現在の内規を見直し、現状に即した内容に改定していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) Classi 連絡の教職員認識 100%を目指したい。 (2) 行事や修学旅行において、生徒の満足度の 80%を目指したい。 (3) 特にここ数年の非常勤講師の白コマの増加や会議の増加、などにより時間割作成に困難が生じている。2022 年度はいびつな時間割が完成しないように、各教員の協力を促す。 (4) 教員に対するアンケートを実施し、60%を超えるようであれば左記(4)の内容を継続していきたい。 (5) 2021 年度中には整備したい。 	(1) B (2) A (3) C (4) B (5) C	<ul style="list-style-type: none"> (1) 教員の Classi での連絡には慣れてきたが、認識 100%には到達できていない。 (2) コロナ禍において中止せざるを得ない行事が多々あったが、修学旅行は国内で実施でき生徒は満足した様子であった。 (3) 会議コマ、非常勤講師の白コマの削減には至っていない。各部署や非常勤の協力が不可欠である。 (4) 紙媒体の書類の削減、不要と思われる捺印の廃止は徐々に達成できている。 (5) 見直すべき内規の内容が多いので、2022 年度中には整備したい。
中学教務	<ul style="list-style-type: none"> (1) ICT の活用を推進。 (2) 学校行事と学年行事の見直しと改善。 (3) 保護者への情報伝達の迅速化。 (4) 学力向上のためのカリキュラムの検討。 (5) 内規の見直しと改訂。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) タブレットの全生徒への配布と教員への研修を実施する。 (2) 新型コロナウイルスの影響による行事の変更と代替の検討をする。 (3) Classi を活用して情報伝達を密にする。 (4) 生徒の学力に見合うカリキュラムの検討をする。 (5) 現状に即したものに改訂していく。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) それぞれの授業においての ICT 機器の活用率を高める。 (2) 生徒の満足度 80%を目指す。 (3) 保護者の満足度 80%を目指す。 (4) 2021 年度中に作成する。 (5) 2021 年度中に確定させる。 	(1) B (2) A (3) A (4) B (5) A	<ul style="list-style-type: none"> (1) タブレットを活用した授業展開にはまだ研究の必要がある。 (2) コロナ禍のために行事を縮小せざるを得なくなつたが、各学年で代替行事などを実施してきた。 (3) Classi を使用しての連絡頻度を高くし、保護者にも一定の費用化をいただけた。 (4) 授業時間数の確保は十分できたが、カリキュラムの変更には至っていない。 (5) 現状に即した内規への改訂は進んだ。
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> (1) 時代ごとに『生活指導マニュアル』の指導方法及びその内容も変化する。内容の見直しによる全教員の統一された指導の実践。 (2) 重点課題：・遅刻（5 分前行動） (3) ・頭髪（奇抜な髪形）・服装（上着のボタン、リボン、ネクタイ、アンダーシャツ、化粧、携帯（校内使用）考査規定の遵守（不正行為） (4) 生活指導部の役割の明確化・担任及び学年中心の指導体制構築・生活指導部は指導のサポート (5) 「SNS」をはじめとするトラブルへの対応・「SNS」に関するトラブルや問題行動への啓発活動や指導・「薬物」に関する啓発活動 (6) 規範意識を持たせることを、生徒の自主性から導き、違反をしないようにさせること 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 簡易なイラスト版の作成配布や生徒の問題行動をクラッシャーにて配信し、全教員に共通認識をしてもらう。（8割を目指したい）ただし問題行動に関しては機密事項も含まれ、人権問題にも発展するので慎重を期する。 (2) 問題は生徒の日常生活に絡む登校時の遅刻である。遅刻絶無は永遠の課題であるが、遅刻 0 を目指したい。 (3) リボン忘れ、ネクタイ忘れは「うっかり」が原因である。制服のボタン留忘れは「面倒と成長による体形の変化」が原因である。化粧は意図的である。特に女子の化粧違反の絶無を目指すには、「心の化粧こそ真の美しさ」と言ってみたところで化粧絶無は不可能である。ペナルティーの強化しかないだろう。化粧 0 を目指したい。 (4) クラッシャーによる伝達の徹底で共通認識を図る。 (5) 専門家の講演による SNS 上のトラブル対処を学ぶ。生徒に講演を通じてその怖さを学ばせる。生徒事故の 9 割以上がこの SNS が原因である。SNS 事故 0 を目指す。 (6) 事故を起こしてしまった自分。問題行動をとってしまった自分。自分を認識し制御抑制するには当然自己の探求が不可欠である。そう考えればループリックの活用の仕方を工夫せねばならない。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 1 学期中を目指したい。 (2) 継続して取り組みたい。 (3) 今年度中を目指したい。 (4) 今年度中を目指したい。 (5) 1 学期中を目指したい。 (6) 今年度中を目指したい。 	(1) C (2) C (3) B (4) C (5) B (6) B	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生活指導マニュアルの内容で、イラスト化したほうが理解しやすいものを作る予定であったが達成できなかった。また問題行動をとった生徒の共通認識としてのクラッシャー配信も達成できなかった。 (2) 遅刻の多い生徒はおおよそ決まっており、家庭生活において、自分なりのルールが定まっておらず、周囲に流され、自身をコントロールできないでいる。この部分をどのように指導していくかを継続して考えていきたい。 (3) リボン・ネクタイつけ忘れを含む服装違反、及び女子の化粧については、登校時、昼食時に生活指導部女性教員の徹底した指導の下、かなり成果を上げることが出来た。 (4) 事故生徒を生活指導部で抱え込んでしまった。担任教諭には、随分とご協力いただいたが、対立もあった。事故生徒について学年中心で動くには、程遠い年度であった。 (5) 本年度、SNS 講演も開催（本校講演録画を教室配信）でき、SNS のトラブル（いじめ・誹謗中傷など）は例年より減少している。新型ウイルス感染拡大も減少傾向に関与している。 (6) ループリックが 10 割活用できたとはとても言えない。事故生徒への対応は、反省日誌を中心に、生活指導部員の力によって指導をしてもらった。

進路指導	(1) 進路学習の見直し (2) 基礎学力の向上 (3) Uゼミ年間計画の見直し (4) 本校生徒の現状把握 (5) 中学校の進路	(1) 進路 LHR を軸にした進路学習の見直し (2) スタディーサポートや進研模試受験後の復習に、デジタルコンテンツの利用の徹底 (3) 1年を通じて実施しながら、問題点を精査し検討する (4) 模試成績及び志望動向の分析 (5) 中学3年間の進路説明会等の精査	(1) 進路 LHR の実施計画の立案・実施 (2) デジタルコンテンツの使用率の向上 (3) 次年度に向け、ガイドブックを作る (4) 模試分析資料を作成する (5) 中学3年間の進路説明会等のスケジュールを作成する	(1) B (2) B (3) B (4) C (5) C	(1) 各回の立案・実施を行ったが、年間を通じた実施案の作成には至らなかった。 (2) デジタルコンテンツの使用は基本、自宅での利用となるため、利用の徹底には至らなかった。 (3) コロナ禍において実施日程の急な変更や実施不可となつた講座分の返金等、例年にはない問題が発生した。今後も、問題点を精査し2022年度は業務の合理化を図り円滑に実施したい。 (4) 模試分析資料の作成が出来ていなかつた。 (5) 進路説明会を一部実施できたがスケジュールを作成には至らなかつた。
入試対策	(1) 墾・中学校訪問を中心とした効果的なアプローチの仕方を検討する (2) 部署内の情報の共有化を図る (3) 上宮太子入試対策部との必要な情報の共有化を図る (4) 広報戦略との連携 (5) 説明会などのイベントについて中学教務・高校教務・事務局との連携を図る	(1) 各エリア担当者で全エリアの訪問をする (2) 会議を通じて話し合う (3) 連絡を取り合う (4) 相談・連絡の徹底 (5) 相談・連絡の徹底と連携を強化する	(1) 受験生・入学定員の確保 (2) 連絡事項の確認の徹底 (3) 両校の関係を密にする (4) 広告や説明会などの精査 (5) 意見の集約	(1) B (2) B (3) B (4) B (5) B	(1) コロナ禍で渉外活動が思うように出来なかつたが予定している入学者数は確保できた (2) 概ねできた (3) 徹底できなかつた (4) 引き続き徹底する (5) 他部署との連携を次年度も引き続き強化していく
eラーニング	(1) 中学授業での iPad 利用促進 (2) 生徒の Classi 利用促進 (3) 個別最適化された学習の促進 (4) 校内システム化の検討 (5) 将来の校内 ICT 化に向けての検討	(1) Classi Note を用いた授業等の公開授業の実践 (2) Classi ポートフォリオ機能の利用促進 (3) Classi 学習マップ、学習動画の利用促進 (4) 無料トライアル出来るシステムでの利用研究 (5) 他校実践等を研究し、実践可能な ICT 化の実現	(1) 1学期中間考査までを期日とする (2) 年間5回のポートフォリオ配信と生徒による自主投稿の実現 (3) スタディーサポート結果返却後に学習マップに連動した学習動画の配信 (4) 1学期末を期日とする (5) 2学期末を期日とする	(1) B (2) B (3) C (4) A (5) A	(1) コロナ禍で公開授業を実施出来なかつた (2) 定期的に配信は行ったがクラスによる差があった (3) 十分促進できなかつた (4) BLEND を次年度の導入に向けて研究を行つた (5) 次年度の高校での iPad の導入、デジタル採点等 ICT 化が進んだ
探究学習	(1) 「総合的な探究の時間」の内容を教員、生徒に理解してもらう (2) 探究課題を積極的に見つける (3) 課題解決に向かう主体的な姿勢を身につける (4) 地域・社会貢献への意識をもつ (5) 結果をまとめ発表できる表現力を身につける	(1) 会議・ガイダンスで説明を周知徹底する (2) 創意工夫により事実を理解させ、問題意識をもたせる (3) 実例をあげて主体的に取り組ませる (4) 地域活性化を考えることを通じて社会・環境情勢に興味をもたせる (5)	(1) 全学年・クラスで「総合的な探究の時間」に取組む (2) 探究課題の設定を行う (3) 情報の収集読取り分析 (4) 探究の課題のまとめ考察 (5) クラス単位から学年全体の発表へと向かう	(1) B (2) B (3) C (4) C (5) D	(1) 探究学習の説明の強化 (2) 探究課題の設定の重要性 (3) 探究課題解決力の育成 (4) 発表・表現力の育成 (5) 共同的な探究活動・探究課題発表の実現 ※ 今年度は共同的な探究活動の困難さにより主体的学習ができにくかつた ※ プレップとパワー特進の探究プログラムの違いからの進度・到達度の差が生じた
広報戦略	(1) 学校案内、ポスター等の作成 (2) プレテスト、校内見学会の案内チラシの作成 (3) web 広告、デジタル広告の企画 (4) 上宮ブランドの構築	(1) 年度の早い段階での完成 (2) デザイン性の優れたものを完成させる (3) 業者案についての研究を進める (4) 上宮の持つ他校との決定的な差異を掌握	(1) 中学パンフは4月下旬、高校パンフは5月下旬の完成予定 (2) 他校との比較研究 (3) 実際に契約を結び、口コミの研究を行う (4) 研究する場を設け、意見を集約する。	(1) B (2) B (3) B (4) B	(1) コロナ禍でさまざま影響を受けて例年よりも完成時期が遅くなつた。 (2) 斬新なデザインのチラシが完成した。公開授業見学会の内容や時間をさらにわかりやすく提示する必要がある。 (3) 新しい業者の下で PV 数などから上宮の HP に多くの受験生が関心を持っているのがわかつた。 (4) 上宮と他校との差異を明らかにし、アドミッションポリシーなど具体的な取り組みを提示することが、上宮ブランドの構築につながると思う。

図書館運営	(1)昨年度以上の貸出冊数をめざす。中高合わせて7000冊をめざしたい。 (2)古く、近年貸し出しがされている蔵書は極力減らしていく。 (3)紀伊国屋書店との連携を取り、図書館運営を生徒にとって有意なものにしていく。 (4)アクティブラーニングスペースを有効活用してもらい、有意義なスペースにしていく。 (5)放課後の図書館の使用方法を今後見直していく。	(1) LIBSTAGRAM や図書館報などの呼びかけて図書館に来る生徒数を増やしていく。 (2)過去3年間借りられていない書籍をピックアップする。 (3)月に一度の会議を行っていく。 (4)中学だけに問わず、高校の各教科の先生にも活用してもらう。 (5)コロナ渦で使用時間の短縮が常とされている中で、テスト前などの使用方法の改善に努める。	(1) 7000 冊以上 (2)100 冊以下 (3)年間 12 回 (4)1 日 1 時間以上の高校授業 (5)生徒にアンケート評価をしてもらう。	(1) B (2) B (3) A (4) A (5) B	(1) コロナ禍で学級閉鎖や学年閉鎖が相次いだが目標達成には至らなかったがそれに近い数字にはなった。 (2)目標冊数には至らなかったが整理は少なくともできた。 (3)会議は問題なく開催できた。 (4)アクティブラーニングスペースを中心に中学生・高校生を問わず活用していただけた。 (5)アンケート評価に関しては全校生徒を対象にすることができなかったが、図書館を訪れる数名に関してはアンケートをとることができた。今後の図書館運営にいかしていきたい。
データ処理	(1)入力システム、調査書発行システム等のプログラムを更新して使いやすさの向上を目指す。 (2)入試業務の遂行（昨年のweb入試処理の問題点を改善する） (3)通知表を含む考查データ等の担任への配布	(1)エラーがでないようにシミュレーションをしっかりと行う。 (2)間違いがないように事前のシミュレーションを行う (3)成績が確定した後速やかにデータを処理して、担任に配布できるようとする。	(1) (2) (3) データの間違がないように慎重な処理を行う。	(1) A (2) A (3) A	(1)目的通り使いやすくなった。 (2)ミスなく遂行できた。 (3)スピード感良く担任業務に繋げることができた。
人権教育	「生徒に、互いを尊重する共生社会のあり方を考えさせる。」 (1)いじめは著しい人権侵害であることを認識させる。 (2)現代社会におけるマイノリティーに対する理解を深めさせる。 (3)インターネットと人権に関する理解を深めさせる。 (4)新型コロナウィルス感染症に関する人権問題について考えさせる。	(1)人権教育 LHR の指導案の完成度を高め、教材の工夫も行う。 (2)研修・資料により、教員の認識を高める。 (3)中高において、1年では「いじめ問題」、2,3年では「マイノリティー」・「インターネット」と人権に関する人権教育 LHR を企画する。	(1)「生活・いじめアンケート」結果 (2)「ワークシート」記述内容 (3)「意見交換」状況 (4)日常の交友関係・生活状況・言動	(1) A (2) B (3) B (4) B (5) B	(1)生徒集団において特に大きな問題はなかった。中高第1学年で人権教育 LHR を実施し、教員研修も行った。 (2)現代社会におけるマイノリティーに関する人権課題は多岐にわたり、年間4回の LHR での学習では不足している。 (3)様々な機会に指導してはいるが、LHR としては全学年で実施できていない。 (4)様々な機会に指導してはいるが、LHR としては全学年で実施できていない。
保健管理	(1)「自分の心と体の健康を知り、まもり、作る」を重点とした健康づくり (2)心身の健康について、自ら考え自己管理できる生徒の育成 (3)生命・体の大切さを発信し、健康リテラシーの定着を図る	(1) ①健康診断の意義、疾病の予防と治療に努めさせる ②生涯にわたっての健康づくりができる力を身につけさせる ③健康・安全に関する意識を高める (2) 心の健康問題の早期発見に努め、早期対応できる支援体制を整える (2) 救急処置・救命講習会を通じて理解・実践を深める	(1) ①啓蒙資料、健康診断の結果、受診勧告書を作成し、配布する ②健康づくりの基本を身につけるよう体育科と協同する ③学校薬剤師の指導を受け校内の環境を整える (2) 個に焦点を当て、個人に配慮した支援をする (3) 来室生徒にとどまらず、クラブ生にも広げ、教員研修にもつなげる	(1) B (2) B (3) A	(1) 健康診断の結果、受診勧告をしたが、徹底しなかったので、再考が必要 (2)心身症やうつ状態と診断される前段階の対応に苦慮したので、さらなる担任との情報の共有化をめざす (3)救急救命法を実施した参加教員数も増え、有意義な訓練であった次回の開催年にも多くの参加を期待する
教育相談	(1)係員個々人のスキルアップ (2)教職員の臨床的視点の醸成 (3)「親の集い」「ホップの会」実施 (4)外部機関（医療、相談機関）との連携 (5)広報	(1) ①面接機会を増やす ②研究会・研修会への参加 (2) ①研修会・担当者会議の実施 ②各担当者へのコンサルテーション (3)保護者のニーズに応え実施回数を増やす (4)連携を通して情報交流を図る (5)HP や Classi の利用	(1) ①面接記録を作成し係会議での報告 ②参加後の振り返り (2) ①生徒理解とその支援 ②生徒理解とその支援 (3)保護者同士の心理的交流 (4) 生徒の支援につなげる (5)係の活動の認知	(1) A (2) A (3) B (4) A (5) B	(1)面接記録を会議で報告し、面接方針や臨床心理的な解釈を相互に検討し合うことでスキルアップにつながった。 (2)担任や担当者からの情報や面接での情報から生徒・保護者の心理的背景を想像することで支援につなげられた。 (3)コロナ禍において「親の集い」「ホップの会」の実施ができなかった。 (4)医療につないだ場合、Dr.と連携を取り、学内での支援を考えることができた。 (5)コロナ禍の影響で思うような発信ができなかった。

特別支援	(1) 係員個々人のスキルアップ (2) 教職員の臨床的視点の醸成 (3) 支援を要する生徒の調査 (4) 外部機関（医療、相談機関）との連携 (5) 支援シートの作成	(1) ①面接機会を増やす ②研究会・研修会への参加 (2) ①研修会・担当者会議の実施 ②各担当者へのコンサルテーション (3) 保健管理票、保護者・担任からの情報を得る (4) 連携を通して情報交流を図る (5)教科担当者、保護者へ年2回のフィードバック	(1) ①面接記録を作成し係会議での報告 ②参加後の振り返り (2) ①生徒理解とその支援 ②生徒理解とその支援 (3)情報を総合し、支援シートに反映 (4) 生徒の支援につなげる (5)保護者と教科担当者との支援シートの共同作成	(1) A (2) A (3) A (4) A (5) B	(1) 面接記録を会議で報告し、面接方針や臨床心理的な解釈を相互に検討し合うことでスキルアップにつながった。 (2) 担任や担当者からの情報や面接での情報から生徒の特性を理解し支援につなげられた。 (3) 支援シートの作成により担当者から多くの情報を得ることができた。 (4) 医療につないだ場合、Dr.と連携を取り、学内での支援を考えることができた。また外部機関から合理的配慮についての提案を受け、学内でケア委員会・担当者会議を開催した。 (5) 前期後期と時期を分けて当該生徒の保護者に確認してもらうべく連絡を取っているが共同作成ができない家庭もあった。
生徒会	(1) 教員間の情報の共有化 (2) 学校行事における生徒会業務の内容の吟味と効率化 (3) コロナ禍における代替え行事の充実	(1) 会議資料を充実させる (2) 内容を洗い出し、最善策を検討 (3)多くの教員からの意見や、生からの意見も参考に進める	(1) 記録を作り報告する (2) 報告書の作成 (3)アンケートを取る	(1) A (2) B (3) B	(1) 会議資料の充実と意思疎通は図れた。 (2) 最善策の検討には入れたが、まとめるまでには至らなかった。 (3) 様々な意見があったが、コロナ禍の制約で実施出来ない行事が多くあった。